

[まんが + 衛星画像] 宇宙からみた地球環境

宇宙航空研究開発機構 (JAXA): 監修

山田ふしぎ・まんが 大月書店 (2004年2月)



2007 年は洪水、暴風雨、熱波、寒波などの異常気象が世界各地で発生し、洪水や山火事などの大きな被害をもたらしました。日本でも夏の暑さは大変でした。誰もが、異常気象、二酸化炭素、地球温暖化ということを考えてたのではないのでしょうか。今までそのようなことをあまり気にしてこなかった人も、なんだか環境破壊がひたひたと押し寄せてくる・・・そんな不安な気持ちにかられていることでしょうか。我々の住む地球は、一体どうなってきているのでしょうか？

実際に地球はどうなってきているのか、それを簡単に見せてくれるものがあります。それは地球観測衛星から撮った地球の写真です。写真を見ただけでは何がなんだか分からないという人には、『宇宙からみた地球環境』がお勧め。衛星からの写真にまんがで解説をつけてくれているので、とてもわかりやすいのです。

もちろん、一枚の写真だけでは、地球がどうなってきているのかはわかりません。でも、昔の写真と今の写真を比べてみると、

その違いに愕然としてしまうのです。

アマゾンの熱帯雨林が急速に失われていく様子、緑に覆われていた広範囲の地域が、1973年からほぼ10年おきの写真で見ると、バリカンで刈り取られたように緑がなくなっていきます。これは、焼畑で農地を広げたことによります。また、アフリカのチャド湖は30年で20分の1に、アラル海はほぼ3分の1になってしまいました。以前は川が流れていたのに、からからになって干上がってしまっているところもあります。これらの画像を見比べると、砂漠化が急速に進んでいることが実感できます。

日本は世界の中では珍しく緑豊かな国ですが、中国の砂漠地帯からの黄砂が海を越えて押し寄せてくる写真や、ゴルフ場が緑の大地のいたるところに虫食い状態を作っている写真などを見ると、安心してはいられなくなります。

衛星画像は、地球環境が破壊されている様子を、一目で現実のものとして見せてくれます。百聞は一見にしかず。本書を読んで、地球の体がどうなりはじめているのか、じっくり考えてみませんか。